

太田水穂 水穂 歌人、國文學者。明治九年十一月九日長野縣生れ、昭和二十年一月一日歿（六三、一九五）。本名貞一。筆名めづろふ生、シシツの島守、みづほのや、みづほのや主人、創作社同人、太田みづほ、太田みづほのや、東街、東街騒客、水穂生、水穂老生、潮音居士人、町の人、花うる里、貞、金衣ハチ、鴛鴦子、鴛鴦生等。明治二十一年長野縣師範學校卒。松本高等女學校教授、日本齒科醫專門學校教授等歴任。大正四年歌誌『潮音』創刊主宰、昭和二十二年日本藝術院會員。妻は歌人四賀光子。『太田水穂全集』全十卷（昭和二十二年）二十四年近藤書店）刊。

著書『しほ草』（みづほのや名、明治二十五年二月十五日文友館）、

『新譯伊勢物語』（大正二年十月、二十日新山書店）、『短歌の言』（大

正十年四月十日岩波書店）、『（附録）紀記萬葉以外の上代の歌』（大正十一

年九月十日洛陽堂）、『芭蕉俳句研究』（合著、大正十一年九月二十

五日岩波書店）、『續芭蕉俳句研究』（合著、大正十二年七月五日岩

波書店）、『大正十年版年刊歌集（大正十）』（共編、大正十二年十月一

日劇根書店）、『（附録）紀記歌集講義』（附録）上代歌謡解』（大正十五年

二月十一日共立社）、木村とと子遺稿・歌集『しほ椿』（木名、編、

大正十五年四月一日刊）、『芭蕉俳諧の根本問題』（大正十五年四月

二十日岩波書店）、上屋残屋遺稿『松野の雲』（島崎藤村共編、大

正十五年五月十日潮音社）、『續々芭蕉俳句研究』（合著、大正十五

年五月十五日岩波書店）、『和歌俳諧の諸問題』（大正十五年十一月

十日共立社）、歌集『冬菜』（昭和二年四月十日共立社）、『萬葉名

首選評釋』（昭和二年十一月十五日主婦之友社）、寺島清司遺著・歌

集『龍騰』（一年祭記念）』（編、昭和五年十月）二十二年号鳥箋子刊）、

『芭蕉連句の根本解説』（昭和五年十一月）二十日岩波書店）、『日本

文學講座・第十卷―江戸時代下編』（合著、昭和六年七月五日新潮

社）、『歌集』『鷺・鶴』（昭和八年十二月）二十日岩波書店）、『萬葉集

の綜合研究・第一輯』（合著、昭和十年二月）二十日改造社）、『芭蕉

研究 蕪村研究』（河東碧梧桐合著、昭和十一年二月）二十八日新潮社

『新潮文庫』（『短歌作法講座・第一卷―作歌入門』（合著・山本

三牛編、昭和十一年五月）二十日改造社）、『^{潮音}歌選 銀河』（鑑選、昭和

十四年八月一日潮音社）、『神々の夜明―古事記の地上展開』（昭和

十五年二月十一日京都・人文書院）、『新選太田水徳集』（昭和十五

年十二月二十一日新潮社『新潮文庫』（『古事記の開顯―神々の夜

明』（昭和十八年十月五日、再刊・十九年五月）二十日京都・人文書

院）、『水徳選歌集』（内題「太田水徳選歌集―並ぶ批評」昭和十九

年六月十五日京都・人文書院）、『歌集』『流鶯』（昭和二十一年十月十

日京都・晃文社）、『和歌史話』（昭和二十二年十一月）二十五日京都

・京都印書館）、『花鳥餘論』（昭和二十三年二月）二十日大日本雄辯

會講談社）、『風雅秘帖』（昭和二十二年五月）二十日京都・人文書

院）、『^{潮音}七歌選 寒梅集』（鑑選、昭和二十二年七月一日潮音社）、『日

本和歌史論・中世篇』（昭和二十四年八月）二十日岩波書店）、『双飛

燕』（四賀光子合著、昭和二十八年二月一日長谷川書房）、『日本和

歌史論・上代篇』（昭和二十九年二月一日岩波書店）、『歌文集』『老蘇

の森』（昭和三十年二月十八日潮音社）等。